

### 第三章 日本の思想 1 日本の固有文化

#### ① 日本の風土と文化

A B cf. AだからB

A : 温帯[1]で[1]の変化に富む[1]国

B : 自然との交感に安らぎ、心の世界と物の世界が一体・不可分。  
全体の調和や直感を重視

(1) [2]性…古い文化と新しい文化

ex. 神道・仏教+キリスト教の共存

(2) [3]性…外来文化の受容

∴ 宗教的迫害や、正統 vs 異端の争いが少ない

#### ② 自然・宗教観

(1) 自然崇拜の多神教 cf. [4]で[5]神

自然の事物や自然現象には靈魂(アニマ)が宿っていると考ええる思想

ex. 太陽 → 天照大神 ([6]カミ)

国生みの神男女二神[7](ノミコト)と[7](ノミコト)の娘で、日本神話の中心的な女神

注: 災厄などをもたらす「悪」神も重視 cf. [8](ノミコト)の一面

アマテラス(オオミカミ)の弟。高天原で暴れたため出雲国に追放された

- 高天原 ([9]がはら) … 神々の国
- 葦原中津国 ([10]くに) … 人間の国 (イザナギとイザナミが作った)
- 黄泉国 ([11]のくに) … 死者の靈魂が行く国。地下の国 (「根の国」)

(2) 神道の発展

1 古神道

祭神 — [12]神 … 祖先神 cf. 神社の氏子

— [13]神 … 土地神 (→ 郷土愛)

2 [14][14]説

「本来」(A)と「仮」(B)

… 仏がAとして、日本の神々にBしている cf. 寺内社

←→ [15]神道 (13C~) は、反発

#### ③ 人間観

(1) [16]心 (清き明き心) … 純粹さと公共心

←→ きたなき心 … 利己的な私心

(2) [17] (罪) … 人や社会に、不幸をもたらすもの

ex. 犯罪 + 病氣や天災

→ [18] (禊) と [18] (祓) で洗い清めることができる

∴ ツミは [19] (汚) と同一視され、不浄や醜さを感覺的に罪惡視

(3) 死生観 … 生者と死者の世界は交流

cf. [20] 常民を研究し、民俗学を創始

名もなき庶民

[21] 民俗学を日本文学や古典芸能の研究に応用。歌人としては釈 迢空

MEMO etc.